

第4次地域福祉活動計画(案)意見募集の結果報告

- 1 募集期間 令和3年11月15日(月)～11月30日(火)
- 2 対象 福井市在住、在勤、在学の方、市内に事業所を持つ法人・団体
- 3 素案閲覧方法 ①市社協Webサイト ②閲覧用資料設置 市社協事務所
- 4 意見提出状況
- (1) 提出者数 33人(地区社協関係者 14人、当事者・団体関係者 8人、福祉サービス事業者 2人、市社協関係者 5人、大学生 1人、市民 3人)
- (2) 意見件数 70件
- (3) 提出方法 来所 5人 郵送 4人 FAX 8人 E-Mail 14人 その他 2人 (合計32人)

5 意見と考え方

No.		提出された意見	意見に対する考え方
1	全体	第3次活動計画が地区社協役員のみなさんに根付いていて、各地区社協活動として取り組まれていたかというのでしょうか。 第4次活動計画を地区社協の事業計画にも盛り込んでいただくためにも、1月の連絡会で説明し、その後もブロック会議などで第4次活動計画を周知することが大事だと思います。	取り組みについては地区の状況に即しておこなわれており、一律のものではないと捉えています。 1月の地区社協連協連絡会で説明を行う予定です。ブロック会議での説明については、他の議題との兼ね合いも考慮しながら検討します。
2	全体	地区内には、社会福祉協議会、福祉委員、民生委員児童委員、保健衛生推進員等、相互に関係する部分も持ちながらも別の組織になっているものが幾つも存在し、地区内の役負担が逼迫し、特定の人に負担が集中している現状が多く見られる。 別組織でありながらも類似の内容を扱っていたり、予算やリソースの無駄も多く発生していると思われる。 バブルが崩壊し、民間レベルではリストラが進んだが、国、県、市レベルでは、必要なリストラが行われないままになっているのではないか。そのような状態の役所から直接地区に要求を出してくるのでは、リソースの無駄をすべて地区内で吸収しなければいけなくなる。地区まで含めたレベルでの全体的なリストラが必要と思われる。 今の日本は、かつてのように金持ちではない。さらに、少子高齢化、労働人口の減少が重くのしかかる。 バブル崩壊以降も、「日本は素晴らしい」「ジャパンアズナンバーワン」とうぬぼれている背後で、世界の労働者の年収はどんどん高くなり、日本の労働者の年収に追いつき、追い越されてしまった。国民レベルでも貧困化が目立ってきている。(日経新聞社の見方)このような困難な状況の下では、無駄は許されない。 いつも上からの都合で組織が新設されるように感じていたので、今回のように計画段階での意見を求めるやり方は評価できると思う。 日本の将来のために、今や貴重なリソースを効率よく活用できるように活動計画を実施して頂きたいと思う。	ご意見を踏まえて地域福祉活動を推進していきます。
3	全体	活動計画を拝見させていただき、改めて福祉について考えました。 今まで「福祉」というと、どちらかといえば地味なイメージで弱者救済という意味合いが強いという狭い捉え方をしていました。 しかし、相手の望んでいる生活の安定やしあわせづくりのお手伝いやサポートを担うのが福祉なのかなと感じます。10～11、17頁の表は具体的にまとめられており、わかりやすいです。 地域福祉活動においては、特にプライベートな問題にかかわると思うので、相方の信頼関係や人間性が重要になってきます。 地域の方に相談したら情報がただ漏れだったという話も聞きます。 福祉に関わる方は、見返りを求めない、損得勘定のない誠実さが求められると思います。 また、福祉の英語(Welfare)も使い、新しい時代に若い方も参加しやすいようにされるといいと思います。	ご意見のとおりだと捉えています。

No.		提出された意見	意見に対する考え方
4	全体	本来はボランティア団体である地区社協の活動範囲と責任が限界なく広がっていくことになるのではないかと不安を覚えました。	地域に住む一人ひとりが少しずつ力を出しあって、地域での助け合いが広がるように取り組んでいきます。
5	全体	全体的に良いと思います。 一点思うことは福祉として障がい者関係との関わる項目は考えられないのでしょうか。	取り組み7、8、11、13などは障がい者が対象に含まれています。
6	全体	地域の見守り活動を継続的に行うためには、常日頃から地域の人々の理解と協力を得ることが大切です。 特に災害時等には、防災関係者、支援担当者にとっては要支援者の安否確認の為に、「要支援者名簿」の確保が必要となります。 その為の個人情報については、その適切な取り扱いについて、地域社会内での理解が得られている事が大前提です。 その為には、行政と防災関係者、支援担当者等が連携して個人情報の適切な利用についてのルール作りが大切であると思います。(現状では上記利用条件等が曖昧で半分不安を感じながら取り組んでおられると感じます。)	ご意見を踏まえて取り組んでいきます。
7	全体	第3次計画のわかりやすさを踏襲し、うまくまとめられていると思います。お疲れ様です。今後の取り組みとして、理事、評議員、策定委員(調査協力団体)の各所属団体が、どの項目に主体的に関わるのかをもっと明確化した推進計画を別途作成し、共有されたらどうでしょうか。	市社協と共に関わる人については記載していますが、理事、評議員、策定委員の各所属団体等とも協力して取り組んでいきます。
8	全体と18頁	計画案は、現状把握から今後の方向性まで、第4次構想がわかりやすく説明されて、全体把握されていると思います。 計画は、どうしても総花的になりますが第4次の中では、特別にコロナ禍の総括と展望を現時点の重要事項として取り上げてよいのではないかと思います。 その他として、表現の仕方についてですが、目標と活動の柱(初めのタイトル)の活字ポイントを同じにしないで、段差を付けた方が理解しやすいのではないかと思います。	ご意見を踏まえて表記を工夫します。
9	第4章	各項目において、市社協とともに関わる人の中に、当事者団体と書いてありますが福井市に在住の当事者の方でしょうか？資料を見るとそうでもないのかなと思ったり。私たちの団体としても、啓蒙活動というか、一側面の理解だけではなく、自閉症スペクトラムの正しい理解が進んでいくことを望みます。	本計画は福井市におけるものですが、市域の団体が無い場合には、県域を活動範囲とする団体とも連携して障がいに対する正しい理解が進むように取り組んでいきます。
10	第4章	評価指標のところは事例となっておりますが、満足度的なことや、市民の理解度みたいなものは探ってはいかないのでしょうか？どんな風に理解されているのか、分かり合えるところのような計画を立てなくとも平常に誰もが心地よい暮らしが保証されるのになと思ったりもします。	取り組みごとの評価指標を高めていくことで、満足度や市民の理解につながっていくと考えています。この計画の取り組みを通して、誰もが分かり合える社会づくりに取り組んでいきます。
11	第4章	諸課題解決のために、人づくり、つながりづくり、まちづくりと3本の柱を立て、それぞれのねらい、対象、5年後の目標、評価指標を示しているため、ねらい、道筋、方策が明確でわかりやすい。日々、地域福祉活動に携わっている者として、大変参考になった。	計画を推進するため、引き続き地域でのお力添えをお願いします。
12	2頁	文字面で申し訳ありませんが、2頁「関係団体、専門機関、行政等が協力し」とあります。これでは市社協の計画を皆さんと協力しながらと読めます。「市社協をはじめ、関係団体、専門機関、行政等が協力し」とした方が、みんなで推進する計画のように感じますが、如何でしょうか。	「市社協をはじめ～」と最初に入れることで、かえって市社協主体の印象となってしまうと考え、素案の記載としました。
13	3頁	SDGs 各取り組みが「目標」に該当するか、今一度検討を	ご意見を踏まえて再度確認します。
14	3頁と23頁	SDGsと企業について、第一生命保険の全国の企業を対象に行ったSDGsアンケートによると、福井県内はSDGsに取り組んでいないとの回答が5割近くあり、社会貢献に取り組むべきとした企業も全国平均を5ポイントあまり下回ったようである。都道府県別でみると、44番目の低さだという。今後の意識向上への取り組みが期待される。	ご意見を踏まえて企業等と連携しながら取り組んでいきます。

No.		提出された意見	意見に対する考え方
15	6頁	第1章 1 計画策定の趣旨と背景(10行目) 「…超高齢化社会へと到達しました」 →「…超高齢化が進展しています」または「…超高齢者社会が進行しています」など 本市の高齢化率の推移を見ると、「人口の21%」を超えたのは、2006年(平成18年)となっており、既に20年余り経過していることから、「到達」より「進展」、「進行」、「その他の表現」が適切だと思われる。余談ですが、公認されている文言かわからないが、28%(7%×4倍)を超えているので、「超超高齢化社会に到達している」とも言える、、、かも。	ご意見を踏まえて「超高齢化が進行しています」に修正します。
16	6頁	市も社協も計画策定のめざすものは同一であると思うし、同一でなくてはならない。市社協は市との整合性のある計画策定を行ってほしい。	市が策定する地域福祉計画との整合性をとりながら、策定に取り組んでいます。
17	7頁	(2)課題及びニーズの抽出方法 4行目、14行目 「(P40参照)」→「P39、40参照」	ご意見を踏まえて「P39、40参照」に修正します。
18	9頁	一人暮らし高齢者がこれからますます増えると予想されます。一人暮らし高齢者の共通の悩み、孤独感、淋しさを解消して楽しく生きていくための現実的な取り組み。	計画に沿って、高齢者の方が地域でいきいきと楽しく暮らしていけるよう取り組んでいきますので、引き続きお力添えをお願いします。
19	9頁	第2章 1 地域福祉活動の現状 9行目「…地域共生社会の実現…」 →「地域共生社会」の注釈を加えたらどうか。	ご意見を踏まえ、地域共生社会の注釈を追加します。
20	10頁	私の暮らす「まち」は、、、不安や課題をそのまま放置しておけば、、、 →例示の2つ目の枠内と4つ目の枠に内で「生かせる」と「活かせない」とあるが「活かす」または「生かす」に統一できないか	ご意見を踏まえ、「活かす」に統一します。
21	12頁	(2)担い手づくり 3行目 「一方で、人材不足と新たな活動者の発掘、、、」 →「人材不足」は課題であり、「新たな活動者の発掘」は解決策の一つなので、並列に列記すると意味が通らないのでは。	ご意見を踏まえ、「しかし、地域福祉活動を進めていく上では人材不足という課題があり、新たな活動者の発掘が求められています。」に修正します。
22	12頁	担い手づくり 定年退職した人に福祉の担い手になってもらう活動をお願いしたい。	ご意見を踏まえて取り組んでいきます。
23	12頁	(2)担い手づくり 活動計画(案)に記載されている内容は当然であるが、その先が何も示されていない。具体的に何と何を行うことで担い手を増やすとし今日の計画が終了する。2026年には現在より何%担い手を増員するとしなければ今の計画は計画ではなくただの作文にしか思えない。 他のページについても同様に思う点が多くある。	今回の計画では5年後の目標に加え、初めて評価指標を設定しております。そちらをご参照ください。
24	12頁	地域の福祉活動自体に理解不足であり、人材探し、集う場所、担い手不足が深刻となっている。近所どうしのつながりはわりとできていると思うが、高齢化に伴い減ってきている。地域での福祉活動を理解してもらい、地域での人材発掘をどうすればよいのか、特に福祉委員、民生委員には男性が少ない。どうすれば主力の人材を誘い出せるか教えてくださいと助かります。	取り組みを通して、地域での福祉活動の理解を広め、新たな担い手づくりにつなげていきます。取り組みの中で得られたノウハウはすべての地区社協で共有します。
25	13頁	(3)つながりづくり 1~5行 太字になっている 1行目「…組織間、関係者、、、」 →「…組織間・関係者、、、」(中点) 枠内 2文章目「…(障がい者、高齢者)」→「…(障がい者、高齢者分野)」	ご意見を踏まえて修正します。
26	13頁	つながりづくり 地域でのつながりの重要性	地域でのつながりの重要性を啓発していきます。

No.		提出された意見	意見に対する考え方
27	14頁	(5)地域での生活支援 枠内 2文章目 「…(障害者分野)」→「…(障がい者分野)」 枠内 3文章目 「…地域の実状に、…」→「…地域の実情に、…」 「実状」でもよいと思われるが、内部的な面もあると考え、「実情」の方がベターと思われるが、…。	ご意見を踏まえて「状況」に修正します。
28	14頁	(4)情報発信・情報共有については、ボランティア募集情報やイベント開催情報などの発信のために、公式LINEアカウントを開設するとよいと思います。 LINEは利用者の層が厚く、日常的によくチェックする人が多いと思うので、今までよりも広範囲かつ確実に情報を発信することが可能になるのではないのでしょうか。	複数あるSNSの中でも、LINEは若者から高齢者まで幅広い世代になじんでいると捉えています。積極的に活用方法を検討していきます。
29	14頁	地域での生活支援 人々が、いつまでもいきいきと暮らせる場をつくるためには、身近な地域での相談、日常生活の支援、災害時の支援など、互いに支え合える関係づくりが必要です。住民ひとり一人が、さまざまな問題を他人事ではなく「我が事」としてとらえ、「丸ごと」受け止める、共に生きる地域社会づくりが求められています。 →最近「我が事」「丸ごと」の支援の形よりも、伴走型支援という関わり方が主流(求められている支援方式)ではないのか	「他人事」を「我が事」に変えていくように取り組んでいきます。 また、伴走型支援を実現するために、専門機関と連携して取り組んでいきます。
30	16頁	(3)まちづくり 「現在も多くの民生委員児童委員や地区社協、、、などが地域福祉活動に取り組んでいます」 →「現在も民生委員児童委員や地区社協、、、など多くの方々が地域福祉活動に取り組んでいます」「多くの」が民生委員児童委員だけでなく、他の団体等全体にかかわってくるのでは。また、ここで福祉委員を記載しないのは「地区社協」に含まれるからでしょうか。	記述についてはご意見を踏まえて修正します。 福祉委員については、地区社協に含まれます。
31	16頁	しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、これまで地域で進めてきた取り組みが停滞したり、新たな地域福祉の課題が生じています。 地域福祉活動に取り組む住民や団体、企業や社会福祉法人など、それぞれの活動の特徴を活かし、ネットワークをつくりながら、住民一人ひとりが安心して暮らせる「まちづくり」につなげます →Withコロナの対応した新たな取り組みというもう一歩進めた意味合いが必要ではないか。	取り組み13、14を通して具体的に取り組んでいきます。
32	17頁	「活かす」で社会福祉法人の地域貢献を十分に活かすことは賛成ですが、事業所などはまだ、人財不足で具体的に地域に出て、何を実践していくか模索中。また、実際に貢献したい事業所もあわれているが、包括としては予防活動やサポーター養成講座運営など検討している。その際に地域の福祉委員や民生委員さんの協力得たい。	各包括支援センターの状況を踏まえて、連携しながら取り組んでいきます。
33	17頁	「ふれあう」で気軽にいろんな世代の人が拠れる場所づくりコロナ感染予防の対策を行いながら、いつでも誰かが見守る必要がありますね。憩いの場づくりの立地はよく考える必要があります。定着するまでの支援が重要。いろんな機関をつなぐことが大切。 地域のスーパーの休憩場などはねらい目と考える。絶対どんな人も買い物には来るから。企業の協力必要同時にどうしても、困っている人に行きつかないこともあり、アウトリーチが必要となってくる。情報下さい。	ご意見を踏まえて取り組んでいきます。
34	19頁	取り組み2 評価指標 発掘した人数 →評価指標は「発掘した人数」ではなく、「当事者団体や地区などの多様なニーズに対応できた数」ではないのか。	今回の計画では、まずは新たな人材を発掘し、地域福祉活動に関わる人を増やすことを目標としています。このため、発掘した人数を重視して、現在の指標で進めていきます。

No.		提出された意見	意見に対する考え方
35	20～23頁	コロナ前は地区の中学生が地区の運動会、公民館のまつり、中学校の体育館を使っのバザーなど、積極的にボランティアとして参加もしくは運営を手伝っていたと思います。思っている以上に、中学生はしっかりしています。高校生・大学生は地域福祉活動も大切ですが、企業、ゴミ拾いなどの環境ボランティア、学習支援などの子ども関連のボランティアなど、選択肢を考えてみては如何でしょうか。	小・中学生向けの福祉教育とも運動させながら、働きかけを強化していきます。一方で中学生は小学生と比べると福祉教育とやや距離があるため、地域や学校の協力を得ながら取り組んでいきます。
36	20頁	「ひとづくり・育てる」について、地区の地域福祉活動を推進する民生委員児童委員、福祉委員、地区社協役員、自治会長、ほやねつとなど、地域全体で見守り、支え合い活動をひろげておりますが、昨年来のコロナウイルス感染の影響を受けて、特に福祉委員は今期2年間、ほとんど地区社協の事業も中止となり関わり方が希薄となる状況でした。来年3月で任期満了となりますが、福祉委員として実感できる環境づくりをいつの時点でも考えていかなければなりません。そのためにも、十分な研修を行い、活動を理解してもらえる人を増やし、地域でいかせたら素晴らしいと思います。また、学校と連携して子ども福祉委員を増やすことで地域を基盤とした福祉教育につなげる。	ご意見を踏まえて取り組んでいきます。
37	21頁	取り組み4の枠内 「…、自治会長などの理解と共感…」 →あえて「自治会長など」としているのは？ 注記5 福祉委員 →「福祉委員」はこのページより前にすでに登場してくるので、そこで掲載するか。 このページの掲載が最も理解してもらうために適当なら、最初に登場してくるページにも何らかの注記が必要ではないか。	福祉委員の推薦者が自治会長であるため強調しています。福祉委員の注記については、5頁の「この計画で用いている用語について」の欄に記載します。
38	21頁	取り組み4について、福祉委員だけが浮いてしまわぬように、常に民生委員児童委員との連携は当然のこととして、自治会との連携した活動が重要。(市としても、民生委員児童委員活動に福祉委員と連携して取り組むことを明記してもらうべき)	取り組み4を通じて、福祉委員と民生委員児童委員をはじめ、連携して地域福祉活動を進めていけるよう取り組んでいきます。
39	21頁	取り組み4について、福祉委員の意識の差や地域住民の理解に差があり、福祉委員活動の取り組みにも地域格差があるように感じる。周囲の理解を促す取り組みが大切だと思う。	ご意見も踏まえ、取り組み4や15で福祉委員活動への理解が広がるよう努めていきます。
40	21頁	福祉委員の意識の底上げをお願いしたい。(人づくり)	現在は地域によって意識や民生委員児童委員との連携に差が見られるため、計画に沿って取り組んでいきます。
41	21頁と32頁	取り組み4と15の文章中の高齢者等からの福祉委員へのメッセージを募りとなっているが、こういうことは、自然発生的に出てくるものでないほうがよいと考える。自然発生的に出てきた声を、地区社協や市社協で広報すること等により、本人のみならず回りの理解がなされるのでは。 当自治会では、役員の一員として年1回手当を出している。福祉委員が地域福祉推進の要とするなら、活動に応じた対価の支給も考えてはどうか。	取り組み4と15はありがとうメッセージに修正します。
42	22頁	ひとづくり・活かすの取り組み5についてとても素晴らしいと思います。課外授業に取り入れられたり、夏期冬期の休み中に自分の住む地域の福祉活動に何か一つ参加することを課題とするなど、若い方の福祉への理解に繋がると思います。 例えば、地域の民生委員児童委員と共に一人暮らし家庭にお弁当配りに一緒に訪ねることで、こんなに多くの一人暮らし高齢者がいるという気付きもあるでしょうし、地域にいる民生委員児童委員の存在も知り、将来その立場に立つことも自然に受け止められると思います。 福祉委員も、地域と密接に繋がる立場である中、活動があいまいな地域もあるので、基盤強化や連携強化の取り組み計画を、実行に移していくことが大切だと思います。今後とも、微力ながら地域福祉活動に参加して行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。	引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。

No.		提出された意見	意見に対する考え方
43	24頁	取り組み7 いろいろな立場の人たちとの情報交換・交流を深める →ジェンダーについての記述は？	ジェンダー関連についても、「当事者団体」に含まれています。
44	24頁と26頁	取り組み9 世代をこえた出会い、ふれあい、学び合いの機会をつくるにおいて、高校生と高齢者のふれあいが例示されていますが、例えば、障がい者と高校生などがふれあえる場づくりも必要かと思えます。障がいは単に知る機会がないだけで、実際に話をすることによって障がいの理解がすすんだり、誤解が解消されたりすると思えます。 また、取り組み9とあわせて「取り組み7 いろいろな立場の人たちとの情報交換・交流を深める」に含まれることかもしれませんが、障がい者を対象とした講座はほとんど行われていません。障がい者が実際に不便を感じていることを、情報交換や交流を通して理解していただき、その不便を解決するための講座などを開いてもらえるような取り組みがあるとありがたいです。	取り組みの中で、ご意見を踏まえて計画を推進していきます。
45	25頁	「既存の文化・芸術活動の成果を発表する機会の把握や、…」と記載ある取り組みについて、今年度、開設された「福井県障がい者芸術文化活動支援センター」が福祉事業所等に一斉アンケートをとられたそうです。そのアンケート結果が、今後、出てくるようなので、情報はセンターに問い合わせるといいかもしれません。	計画の期間中でも、こうした調査の結果を踏まえて取り組みを調整したいと考えていますので、情報収集に取り組んでいきます。引き続き情報提供にお力添えをお願いします。
46	25頁	「障がい者やその家族、関係者に活動への共通理解をもつための学習会を開催し、…」と記載あることについて、今年度から、当フォーラムが「みなぶたフォーラム」と題した講演会やシンポジウムを開催していきます。 目的は、障がい者の芸術文化活動の担い手づくりです。フォーラムの中身としては、福井県がまだまだこの分野が発展途上のため、他県の先駆的事例の紹介等、インプットの機会が今年度はメインですが、今後は、関心のある人同士がつながりアクションに展開できるよう、ボトムアップ型の活動展開になるようなプログラムにしていく予定です。当フォーラムが実施していくこの事業と、有機的な連携が図れることを希望します。	既に活動している当事者の方の状況を知る重要な機会と捉えていますので、積極的に連携を図っていきます。 本計画における新しい取り組みでもあるため、特に注力して取り組みたいと考えています。
47	25頁	取り組み8の枠内 「既存の文化・芸術活動の成果を発表する機会の把握や、障がい者やその家族、関係者に活動の共通理解をもつための学習会を開催し、……。」 →「障がい者やその家族、関係者に、既存の文化・芸術活動の成果を発表する機会の情報提供や、活動の共通理解をもつための学習会を開催し、…」 「発表する機会の把握」とは、期間中(4次)発表の機会がどのぐらいあるかを調べて把握するという意味と考えるが、それを誰にどうするかがわからない。	ご意見を踏まえて「既存の文化・芸術活動の成果を発表する機会の把握と障がい者やその家族、関係者に活動の共通理解をもつための学習会を開催し、……。」に修正します。
48	26頁	取り組み9 5年後の目標 「時代の流れに応じたふれあいや学び合いの機会」とは何か、わかりづらい。	ご意見を踏まえて「新たな情報機器の活用など、時代に応じたふれあいや学び合いの機会を臨機応変に提供できる体制をつくります」に修正します。
49	27頁	ふらっとベルは、とてもよい方策であると思う。長期的には、ベル以外にもふらっと〇〇が拡大されるとありがたいです。(場所の例)エルパ、パリオ、アオッサ、ハピリン、メガドンキー、フレンドタウン、図書館、病院等の一角。	ご意見を踏まえてノウハウを広げていきます。
50	27頁	取り組み10について本当に困っている人は、なかなか声をあげることができない。このことを十分踏まえて、声をあげられる仕組みが必要。そのためにも、身近な地域にいる福祉委員がいかにアンテナを広げているか。民生委員児童委員と共に、連携のとれた活動が他の関係機関団体へとつながり、課題解決へのみちすじとなるのではないかと。	集える場づくりと並行して、引き続き福祉委員の役割や意識の向上、地域の見守り体制の強化に取り組んでいきます。
51	27頁	取り組み10では、「ふらっとベル」有りきの計画に思われる。ふらっとベルを含めたふれあいの場づくりをどうすすめるか等、もう少し広い視点でとらえた方がよいのではないかと。	ふれあいの場づくりについては、当会のノウハウを伝えるなどして、他機関が開催するものも含め広げていきます。
52	27頁	取り組み10のふらっとベルは、買い物帰りの人たちが集ったり相談にいやすい場である。また違った層の住民とつながったり、男性の参加もありとてもよい活動だと思う。継続して取り組んでほしい。	ふらっとベルの活動は継続すると共に、取り組み10を通じて、協力法人の拡大や相談機能の充実等に取り組んでいきます。
53	28頁	つながりづくり 団体の意見交換の場、交流会などを通して、連携し合うことが大切だと思った。	ご意見のとおりだと捉えています。

No.		提出された意見	意見に対する考え方
54	29頁	目標2つながらづくりのメイン、世代交代するための30～50代の担い手づくりの取り組みだと思いましたが、具体的に何をするのか伝わってきません。5年間で各地区で具体案についてはこれから考えて啓発していきますだけではこれまでと変わらないので少し弱い気がします。 ニーズや課題については、抽出されているはずですから、もう少し具体的な中身、誰がどのようなスケジュールで展開の方法案などを含めて計画とした方がよいと思います。	新しい担い手づくりについては、この計画の取り組みを通して方法を見出し、地区に浸透させていきたいと考えています。 即時的に進む取り組みではないと考えていますので、引き続き地域の皆さまのお力添えをお願いします。
55	30頁	SNS等を通して、若者層の参加を促していただきたい。	各種ツールの特性を分析し、的確に情報を伝達できるよう取り組んでいきます。
56	30頁	現状と課題 8行目 「創意工夫を講じ」→「創意工夫を施し」または「創意工夫を凝らし」または「創意工夫を重ね」にしてはどうか。	ご意見を踏まえて「創意工夫を凝らし」に修正します。
57	32頁	5年後の目標について、11月13日に地区社協で福祉委員の研修会を開く。3グループに分かれて意見交換、いろいろな熱い思いを聞きました。コロナが落ち着き、人とのやり取りができるようになったら、もっと増やしたい。 欠席者へのアンケート返送を依頼しています。今月中に締切20日までにまとまったら、提出します。(研修会の意見も同様に)	コロナの感染状況をみながら、研修等が開催できる状況となりましたら、積極的に取り組みたいと考えています。 11月13日に地区で開催された福祉委員研修会をはじめ、各地区社協での福祉委員の思いや意見をお聞かせいただき、5年後の目標につながるよう好事例を積み上げていきます。
58	32頁	取り組み15 また、福祉委員になって良かったと思える事例や高齢者等から福祉委員への励ますメッセージを募り、広報します。 →「励ますメッセージ」ではなく、「ありがとうメッセージ」の方がしっくりくる。 「励ますメッセージ」とすると、めいっている感じがする。	「ありがとうメッセージ」に修正します。
59	33頁	取り組み16で地区防災＝自治会長＝民生委員＝福祉委員、情報交換、大変重要と考えています。地区防災に働きかけ、充実させていく必要がある。	計画に沿って、地道に取り組んでいきます。引き続きお力添えをお願いします。
60	34頁	取り組み17 地域で助け上手と助けられ上手を育てる仕掛けをしていく必要があります。 →課題にあがっている「助けられ上手」の取り組みが必要である。 これからの時代、助ける人より圧倒的に助けなければいけない人(支援の必要な人)が増加していく時代である。 「助けられ上手」を増やしていくことが急務ではないか。5年後では遅いと思います。	助けられ上手を増やすことは大切な視点です。取り組み1と17の中で取り組んでいきます。
61	35頁	(注13)が唐突に感じます。(注13)34頁の下部にもってくるとよいと思います。	最終的に冊子を製本する際には割付を調整します。
62	39～40頁	高齢者福祉の関係者懇談会がない理由はなんですか？	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、懇談会を開催することが困難であり、ヒアリングシート中心に意見抽出を行いました。 高齢者分野については既存の調査が充実しており、それらも併せて分析しました。
63	39頁	課題及びニーズの引用調査のページでは、日程と団体名だけで、どんな課題ニーズが出たのかを表などで整理したほうが、今後の計画づくりの参考になるのではないかと。	課題及びニーズは、事務局内で整理し、策定委員会において資料としてまとめました。18の取り組みを進めていく上で、今後の参考とします。
64	—	御苦勞様です。特にございません。良く出来上がっているかと思えます。	精一杯取り組んでいきます。
65	—	障害者の理解啓発については、これまでのように小学校での福祉学習だけでなく中学校にも拡大されるよう一歩前進だと思ふ。さらなる発展として、公民館単位あるいは幼稚園・保育園など、人生を通してやったほうがよいと思う。 その他、大雪大雨あるいは新型コロナなどで、不要不急の外出が自粛になり、集まる機会が極端に減ってしまう場合、オンライン(Zoom)等によるICTによるものが増えるが、それを障害者でも容易にできるようにタブレットなどを無償で貸与するなど、もっと障害者でもITに取り残されないような工夫をしてほしい。 また、地域間でのコミュニティーはとても大事なことである。	ICTの活用については、今回の計画の中でも特に注力する分野でもあるので、ご意見を踏まえて取り組んでいきます。

No.		提出された意見	意見に対する考え方
66	-	障害児者の地域生活についての研修で、地域生活支援拠点や重層的支援体制整備事業等のお話を聞きましたが、現実的には自分が住んでいる地域ではどこが拠点になっているのか実感がありません。そういったことも含めて計画していただけたらありがたいです。	行政にご意見をお伝えします。
67	-	人は誰でも老い患い死に至る。このことを考えるとき、いかに健康寿命を長く、患い介護を受ける時を短くするか、そして、患っても安心して介護を受けたいと思わぬものはいない。誰もが必ず通る、老い患ってもその人らしい安心して介護が当たり前を受けられるようにするには、福祉サービスの充実は当然のこととして、介護する人の心の安定が何よりも大切。このことを支援している当事者団体や介護者家族の会への支援の必要性を是非とも計画に反映してほしい。	引き続き、当事者団体等の意見を聞いて取り組んでいきます。
68	-	活動計画体系について、方向性が明確に示されており、わかりやすくまとめられている。しかしながら、実践するとなると、なかなか難しい面がある。特に私たち弱小な地区社協の取り組みには人材の面でも限界があり、おのずと課題を絞って対応せざるをえないと思う。	地区の状況を踏まえて取り組んでいきます。
69		1987年(昭和62年)から始まったといわれる福祉委員ですが、福井市49地区、地区によっては活動の内容に差があるように感じます。マンネリ化しているところもあり、地区で設置をしている手前、市社協からは強く言えないところだと思いますが、32頁の取り組みのように、積極的に頑張っている福祉委員など、他地区にも紹介する場など、よい取り組みだと思えます。想いをつなげていけるようになることを願います。	精一杯取り組んでいきます。
70		SDGsを知らない人もいる。サブタイトルに入れてはどうか。	ご意見を踏まえ、サブタイトルで「誰一人取り残さない社会の実現」を追加します。